

水質調査の概要について

1. 目的

木曽川上流河川事務所管内の一級河川（国土交通省管理区間）において、河川内の水質調査を実施します。この水質調査は河川の水を採取したり、河川の現状を見たり感じたりして河川の濁度などを調査することにより、水質の現状を把握することを目的としている。

2. 調査方法

調査は、水の透明感、川に入ったときの快適性や衛生学的な安全性がどうなのかなどを調査項目にあげて行い、住民との協働による測定や河川管理者による測定を実施している。

今回は住民との協働による測定を行い、具体的には、

①「人と河川の豊かなふれあいの確保」、「豊かな生態系の確保」の測定項目（以下の表を参照）ごとに、調査参加者がどのレベルに該当するかをそれぞれ評価して、調査票に記入する。

②調査が終了したら、みんなで記入した調査票を見比べて、各調査地点の最終的な評価を多数決などで決定する。

■人と河川の豊かなふれあいの確保

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル ^{※1)}				
			ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触 ^{※2)}	水におい	糞便性 大腸菌群数 (個/100mL)
A	顔を川の水につけやすい		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上 ^{※2)}	不快感がない	不快でない	100以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	ところどころヌルヌルしているが、不快でない		1000以下
C	川の中には入れないが、川に近づけることができる		川の中や水際にゴミがあっても不快である	30以上	ヌルヌルしており不快である	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる 風下の水際に立つと不快な臭いを感じる	1000を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあってもとても不快である	30未満		風下の水際に立つと、とても不快な臭いを感じる	

※1) 評価レベルについては、河川の状況や住民の感じ方によって異なるため、住民による感覚調査等を実施し、設定することが望ましい。

※2) 実際には100cmを超える水質レベルを設定すべきであり、今後の測定方法の開発が望まれる。

※3) 川底の感触とは、河床の礫に付着した有機物や藻類によるヌルヌル感を対象とする。そのため、川底の感触は、ダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

■豊かな生態系の確保

ランク	説明	評価項目と評価レベル		
		DO (mg/L)	NH ₄ -N (mg/L)	水生生物の生息*
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	II. 少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	III. きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	IV. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等

*) 水生生物の生息は流れのある瀬で調査を実施する。そのため、水生生物の生息はダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

3. 調査期間・日程

7月24日(火)～8月16日(木)の間で、1ヶ所につき1日、計7日間
(詳細の日程は、別紙-3予定表参照)

なお、予備日として8月20日(月)～8月24日(金)を予定。

4. 調査地点(7ヶ所)

木曾川：犬山頭首工・平成川島橋

長良川：藍川橋・忠節橋

伊自良川：古川橋

揖斐川：岡島橋・鷺田橋

(詳細は、別図1参照)